

平成18年度 アクティブプラン検討会（第1回）記録

○と き 平成19年2月3日(土) 14:00～16:00

○ところ 神戸市総合教育センター 701会議室

*委員の欠席 5名

*傍聴者 2名

1. あいさつ(小川教育長)
2. 委員紹介
3. 座長選出 長瀬荘一 神戸市女子短期大学副学長
4. アクティブプラン実施状況報告(事務局) 資料1～資料7

5. 検 討

○座長あいさつ

- ・ここに来る途中で道ばたの電柱に帽子がぶら下がっていた。近づいてみると、雨に濡れないようにビニル袋に入れてテープでくくりつけてあった。きっと近所の方が拾って、気を利かせているのだろう。ともすると他の人に注文をつけることはよくするが、このような互いを思いやる心遣い、教育的な社会の中で、子どもたちを学ばせていきたいと思った。
- ・神戸市の「特色ある教育推進アクティブプラン」の検討会も、プランを作る段階から入れると平成14年から始まったと聞いている。今でこそ、学校評価(自己評価・自己点検)は当たり前であるかのように語られているが、教育委員会としてこのような早い段階から、自己点検・自己評価の方法を取り入れ、市の施策について第三者による評価を翌年の施策に生かそうとされていることを私たちは評価しなくてはならない。教育の営みは、奇をてらうようなものではなく、心を育て、知能を育む地味な仕事である。実に5年も前から、地道な取組をされている。委員の皆さんには、忌憚のないご意見をおっしゃっていただき、施策に生かしていきたい。
- ・今年度も3回の検討会が予定されている。今日は、第1回目ということで、実施状況をお聞きして意見を述べる。2回目は、今日の意見を集約して来年度へ向けての基本的な方向性についてご意見をいただく。第3回目は、それをもとにして、検討委員会として提示し、施策をたてる参考にしていただく。
- ・今日は、この後、いろいろな取組についての説明がありますが、メモ、チェックをしながらお聞きいただき、後ほどご意見を発表していただきたい。今日は立場をこえて、遠慮なく、他の人の仕事、分野に対しても忌憚のないご意見をお願いしたい。
- ・それでは、事務局より「神戸の特色ある教育推進アクティブプラン」の実施状況の報告をお願いします。

- 事務局説明 アクティブプラン実施状況報告 資料1～資料7
- 座長 ・資料①についての質問、意見を最初にいただきたい。(意見なし)
 ・資料②であるが、のちほど総括的に意見をいただくので、個別に見ていきたい。
 <1. 分かる授業推進プロジェクト>
- 委員 ・P3の「チャレンジ指標」で中学校の平成16年度から17年度で、かなり落ち込んでいる理由は？
- 事務局 ・中学校が平成15年度71.8% (国語59.3 数学57.5)、平成16年度がやや高くなっており、このような結果となっている。(特に国語)。17年度は下がったと真摯に受け止めている。「分かる授業」を進めていくことで、目標値を目指して頑張っていきたい。
- 座長 ・この数字は、平成17年度の結果ですね。「分かる授業」を拠点校方式で本格的にし始めているのは、平成18年度から、ということで、本年度の成果は来年度に出る。
 ・数値として、統計的な誤差はあるのか。有意かどうか判断する必要がある。
- 委員 ・数字を見る限り有意だが、もうちょっと推移を見たいし、ある程度の幅で見たい。
- 座長 ・こういう傾向が続くなら問題である。少なくとも上昇傾向ではない。中学校の現場では、どう考えているのか。
- 委員 ・平成16年、17年頃の社会の目の違いもあると思う。17年度は、PISA調査の結果がでて、日本の子どもたちの学力低下が大きな社会問題となった時期。その結果を見て、現場の教師も発展的な学習に力を注いでいた部分もある。教科によっては、難しい領域まで取り組み、その結果、ついていけない生徒が増えたのではないか。
- 委員 ・私の大学の院生(現職)もそう言っていた。発展学習に張り切って取り組んでいる先生がいたと。
- 委員 ・全国的な学力低下が騒がれる中で、他教科においても、いろんなことに対応できるように、少しはみ出して教えている。少し詰め込み過ぎたのではないか。勿論、英語、数学などは少人数指導で分かりやすいという感想もあるが、全ての授業で実施できているわけではない。
- 委員 ・例えば、「授業が分かる割合」が90%ならいいのか、というと、そうとも言えない。それは、授業の質が下がっているわけであり、数字だけで判断できない。ただ、中2で半分くらいの子が、分からないと思っているまま授業が進んでいるのは、難しい現実である。
- <2. 英語教育・英語活動プロジェクト>
- 委員 ・今年度から全小学校で1クラス7時間の英語活動の実施が始まった。非常によかった。7時間の内容も、きちんとカリキュラムがあり、昨年までと比べてもグレードアップしており非常によかった。ただ、人とかお金がかかることなので、今後どうなるのか方向性が気になる。

< 3. 大学連携プロジェクト >

- 委員
- ・先日、小学校でスクールサポーターをしている学生から、「小学校でミシン掛けをするから指導をしてほしいと頼まれたのだが、自分は得意ではないので」との相談があり、家政学部の教員に学生への指導をしてもらい、自信を持って学校へ行くことができた。是非、小、中学校の方からこのように、具体的に「こういう指導ができるように力をつけてきてほしいとか、こういう工夫ができるようにしてきて欲しい」と言っていただくと、指導教員も大学も安心して送り出せる。遠慮せずに、現場から言っていただけるとありがたい。
- 座長
- ・現実的な課題を提示してもらうことで、学生の参加意識、貢献意識も高まっていくという事例である。
- 委員
- ・スクールサポーターを経験して、やはり教員になりたい、という学生もいるだろうが、逆にもういいわ、という学生もいるのでは。スクールサポーターに来た学生の感想は？
- 委員
- ・インターンシップの例では、自分が小中学校の時に学校に対してマイナスの経験をもった学生がそういう意識を克服したい、という気持ちで中学校に行ったが、やはりうまくいかずに、小学校に変えていただいたという例があった。自分ではもう大丈夫だろうと思っていたが、現実に行ってみると、やはり過去のトラウマが残っていることに気づいた。子どもと接する経験等をもっとつまねばならない必要性に早めに気づくことができた例である。
 - ・サポーターに行って、教職をやめようと思った例は今のところ聞いていない。自分が考えていたよりも、課題がたくさんあることに気づき、努力していきたいという学生の方が多い。
- 事務局
- ・資料7「平成18年度神戸市スクールサポーターアンケート概要」を見ると、「応募の動機」、「事前指導内容」等が分かる。「活動の成果」を見るとかなり高いことが分かる。課題としては、「もう少し活動の具体的指示をしてほしい」という感想が28.9%もあり、今後の課題である。配置校の校長に指示していきたい。

< 4. 児童の体力アッププロジェクト >

- 座長
- ・P9～11で数値的な説明もあったが、気づかれたことはないか。
- 委員
- ・特にないが、平成13年度から見て、まあ頑張っているのではないか。

< 5. 学校評価・学校評議員プロジェクト >

- 委員
- ・西区の中学校であるが、本校もさまざまな評価を行った。力を入れたのが、生徒による全教科、担任に対する授業評価アンケートの実施である。全保護者対象アンケートも実施した。実施するにあたっては、職員の中ではたくさんの意見ができたが、結果を見て学校としての取組が伝わっていたと、ひと安心した。ただ、文章記述ではかなり厳しい意見をいただいた。言われてもやむをえない意見と、私たち学校の意向、教員の考え方がきちんと保護者に伝わっていないことを感じた。保護者が子どものいうことをストレートに聞いて、そのまま学校に返している。回答できることは返していったが、素直に受け止め、学校運営に生かしてい

- きたい。厳しいから止めようという職員からの声がでなくて良かった。
- 座長
- ・どうしても学校の評価は、初期のためらい、防衛的本能がある。これは、小中高、大学も一緒である。やってみると、意外に好意的な見方が多い。
 - ・先日、NHKの「クローズアップ現代」で「要求する親、問われる教師」という番組をしていた。保護者の過大な要求に対する学校現場の悩みは大きい。保護者の要求はこれでいいのか、学校と保護者という枠組みだけで解決ができるのか。第三者が冷静に両者の話を聞いて調整をし、検証するというような機関が必要なのでは等の問題提起がなされていた。考えさせる部分が多かった。
- < 6. 学力調査プロジェクト >
- 委員
- ・直接、学力に係わる問題ではないが、全国的に見ても、子どもの読書と学力との関係については、あまり分析されていない。何のために、子ども読書を推進するのか、OECDの学力調査の低下もあつたはず。国語だけの問題ではない。私は重要だと思っている。読書と学力との関係について、読書の推進について、神戸市としての施策があれば、お聞きしたい。
- 事務局
- ・読書と学力の関係については、「1ヶ月で一冊も本を読まない」子は、小学校で約30%、中学校で約40%である。学力との関係も分析している。読書が学力だけでなく、豊かな人間性との関係もあり、朝の読書も推進している。ある学校では、小1～小6で、毎日家でも30分間本を読もうという取組をしている例もある。
 - ・特色ある学校づくりの中で、うちの特色は「読書活動の推進」だという学校もできて欲しい。
- 委員
- ・私の子どもの中学校も毎朝の読書活動に取り組んでいるが、「好きな本を持ってきてよい」となっていて、各自が好きな本を読んでいる。学校では、「なぜ、読書活動をするのか。」という指導をしているのか。説明と目標提示が全般的に不足しているのではないか。読書活動以外でも言えることだが。
- 委員
- ・ご指摘の通りだと思う。本を読む習慣がない子が多い。まず習慣作りが難しい現実がある。本校では、読書タイムとして月2回、長い昼休み時間に保護者のボランティアによる読み聞かせを行っているが、低学年の子が中心。ある学年は学年をあげて取り組み始めている。もっと、全体に広がっていけば、と思う。
- 委員
- ・神戸市では、読書活動は、ずいぶん昔からやってきた。私の学校では、図書委員が中心となって「図書館だより」で本の紹介を行っている。また、読書週間に校長が朝礼で読書について話をした。
 - ・「どういう目的で読書をするのか」と言われたら、私ならどう話すのかを考えていた。学校現場では、だいたいそういうふうにはしていないか。
- < 7. 指導力向上プロジェクト >
- (特に意見なし)
- 座長
- ・全般を含めて意見をお願いしたい。
- 委員
- ・3学期の2月に入っているのに、小1のあるクラスがまだ落ち着かないという話を聞いた。特定のごく少ない例だと思うが。

- ・義務教育を考えていく上では、個人情報保護法があり、情報交換が難しくなっているが、幼小連携が課題ではないか。

- ・「特色ある神戸の教育推進アクティブプラン」においては、特別支援教育、盲・養護学校もある。そのあたりのデータ、枠組みを広げていく必要があるのでは。市立幼稚園、盲・養護学校と地域の小中学校との連携についても今後検討していただきたい。

○座長

- ・小1プロブレム、特別支援教育の必要も言われているので、今後視野に入れていけばという貴重なご指摘であった。

○委員

- ・小学校でここ10年の間に、先生方の半数が入れ替わることを聞いて驚いた。

- ・本日の資料には、現場の意見も入っているが、もう少し、はっきりと見える方がいいと思った。いろいろと課題が多くて、どれを重点的に進めていくのか分かりにくい。先生方が入れ替わるこの時期をとらえて打って出る、この機会に解決していこうという目標を掲げて、重点項目をはっきりさせてはどうか。そういう意味で、今年度からの「分かる授業推進」「教えるプロの育成」といった取組を注視していきたい。

○座長

- ・時代性を見て、行政として施策のめりはりをつける、ポイントを重点化すると分かりやすいという指摘であった。

- ・今日の議論で十分でない部分については、意見書を事務局にお出しいただきたい。

6. 事務局連絡

7. 閉 会